

シマノトリコロール報告書

— 持続可能な世界への貢献に向けて

[活動期間 2023.1.1—12.31]



SHIMANO

もっと自然へ、もっと人へ



当社の使命を象徴するトリコロールラインをあしらったコーポレートブランドロゴ。トリコロールラインは、「大地・空・海」を表し、当社の事業領域や目指している世界観を表しています。

当社は、人と自然をキーワードに環境・社会・文化というテーマに沿った活動

シマノトリコロールプロジェクトに取り組んでいます。当報告書では、

I. 持続可能な世界への貢献 ― SDGs に関わるシマノの取り組み

II. 企業文化の醸成 ― Closer to Nature, Closer to People

の2部構成で、当社の活動をご紹介します。

シマノの存在意義、実現していきたい世界の一端を知っていただければと考えています。

はじめに	03
シマノトリコロール報告書 発刊にあたって	05
I 持続可能な世界への貢献 ― SDGsに関わるシマノの取り組み	06
安全で働きやすい職場づくり	08
1.人材育成の様々な取り組み	
2.労働安全衛生	
開発型デジタル製造業として	14
イノベティブな製品開発を目指して	
地球環境への取り組み	16
1.CO ₂ 排出量の管理・削減	
2.資源循環の促進	
3.環境保全活動	
シマノグリーンプラン	
4.自転車通勤の推進	
II 企業文化の醸成 ― Closer to Nature, Closer to People	24
自転車文化・釣り文化の創造	26
1.イベント開催・サポート活動	
2.文化発信拠点	
3.その他文化創造活動	
4.文化発信メディア	
躍動する人材	48
1.社内大学「SHIMANO CAMPUS」	
2.Learning Team Shimano Program	
海外拠点向け次世代リーダー研修	
地域社会への貢献	52
シマノトリコロール報告書を読んで	56
株式会社シマノ 会社概要	58

シマノトリコロール報告書 発刊にあたって



私どもは1921年に創業者・島野庄三郎が堺に小さな鉄工所を興して以来、地道に様々な技術革新を重ねながら百余年に亘り事業を継続してまいりました。これもひとえに皆さま方のご支援・ご指導の賜物と心より感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、ウクライナでの紛争が長期化し、世界情勢は混迷を深めています。原材料、電力・ガス等を中心に物価高も継続し、経済に対する先行き不透明感も増しております。一方で気候変動に対する世界全体の進捗を確認するCOPを筆頭に、化石燃料からの脱却や再生エネルギーについて、具体的かつ多様なアプローチの必要性が議論されております。こうした状況におきましても、当社は会社の使命に根差し、持続可能な社会に貢献するための様々な活動を今後も継続・発展させてまいります。その証として、『シマノトリコロール報告書』にまとめましたので、お届け申し上げます。

「シマノトリコロール」は当社コーポレートブランドロゴにある3色ラインです。ライトグリーンは大地を、ブルーは空を、そしてディープブルーは海を意味し、私どもの事業領域や目指している世界観を色で表現しています。

当社の使命「人と自然のふれあいの中で、新しい価値を創造し、健康とよろこびに貢献する。」に則り、こころ躍る製品と健康的なライフスタイルをお客様にお届けすると共に、豊かな自転車文化・釣り文化を創造すべく、環境に配慮したものづくりや地域貢献活動を積極的に進め、持続可能な社会の実現に向けて努力してまいります。

この報告書が私どもをご理解いただく一助となれば幸いです。

代表取締役社長

島野 泰三

I

持続可能な世界への貢献

SDGsに関わるシマノの取り組み



⑧ 働きがいも経済成長も



⑫ つくる責任つかう責任



⑬ 気候変動に具体的な対策を

当社は自らの使命に則り様々な活動を展開しています。
企業としての社会的責任を果たしていく地道な活動もそのひとつであり、
それは「持続可能な開発目標 SDGs」への取り組みでもあります。
SDGsのうち、当社の事業や活動方針に沿ったゴールとして、
とくに「働きがいも経済成長も」「つくる責任つかう責任」「気候変動に具体的な対策を」
という3つの目標に対して重点的に取り組んでいます。
ここでは、SDGsに関わるシマノの2023年の活動を中心にをご紹介します。

■ 安全で働きやすい職場づくり 08

人材育成の様々な取り組みとして、「個人・組織能力の向上」及び「いきいきと働ける職場を目指して」と題し当社の活動をご報告します。また、労働安全衛生に関わる取り組みについてもご紹介します。



■ 開発型デジタル製造業として 14

今回は、知的財産分野に関する功績が高く評価された『Clarivate Top 100 グローバル・イノベーター2023』アワード受賞、また2023年度にリリースしたところ躍る新製品をご紹介します。



■ 地球環境への取り組み 16

シマノ製品をお使いいただくフィールドである地球環境への配慮は、当社の重要な課題です。CO₂排出量の管理・削減、資源循環の促進、環境保全に関する当社の活動についてご紹介します。



1. 人材育成の様々な取り組み

シマノでは、各国の研修において企業理念やものづくり思想、企業文化のさらなる浸透に力を入れています。2023年も、世界中の拠点で個人能力の向上やチームワークの強化を目的に様々な取り組みを実施しました。実践的な知識・業務能力を向上させるコンテンツだけではなく、現在、そして未来にも変わらず求められるシマノスピリットの本質を学ぶことで、世界中に広がるチームシマノメンバー共通の企業理解とチームシマノの結束の強化を図りました。

■ 個人・組織能力の向上を目指して

人的資本開発の取り組み [日本]

シマノ本社は2022年に社内大学「SHIMANO CAMPUS」を創設し、会社の歴史や志などへの理解を促進するコンテンツの紹介や講座を継続しています。社員同士がつながり、互いの専門知識や経験を共有できる場を設け、社員が新たな知の創造を深めることができる機会を提供しています。

今後ますますひとづくり施策を強化し、社員の自律的な学びの促進、志・好奇心を育む仕掛け、挑戦を支援する仕組みづくりのため、2023年1月に人的資本の開発を担う専門部署を設立しました。

階層別研修 [日本]

シマノ本社は毎年、年次・階層別の研修を行っています。新入社員研修では、社会人としての自覚を促し、会社についての理解を深めます。2年目では自身の仕事を振り返り、3年目での独り立ちを目指して目標を設定。3年目研修では自身の自立度を振り返り、今後のキャリアイメージを描き、シマノで成し遂げたい目標を設定します。また、階層別では職位が上がるタイミングで必要な視座を身に着けるための実践的な研修を実施しています。

通信教育 [日本]

シマノ本社は、社員が自発的に学ぶことができる通信教育制度の充実を図っています。語学研修に加え、業務に関連する技能や社会人として推奨される知識に関する検定など、幅広く扱っています。また、これらの受講費用を会社が補助し、社員の知識向上を支えています。



Colourworks Learning [イギリス]

2019年スタート

シマノUKの社員は、自分自身についてより深く学ぶことで、各自のコミュニケーションスタイルや行動嗜好（パーソナルカラープロファイルに基づく）を理解するトレーニングプログラムに参加しました。また、4つの典型的な行動スタイルやコミュニケーションスタイルについて学ぶとともに、その人が他者からどのように受け止められているかについての洞察も行い、日々の仕事におけるコミュニケーションスキルを磨くヒントを得ました。



法務・コンプライアンスセミナー [シンガポール]

2023年スタート

シマノシンガポールは、コンプライアンス意識の醸成に向けた取り組みを強化するため、半期ごとにビジネス法務・コンプライアンスセミナーを開催し、「職場のハラスメント」「シンガポールの個人情報保護法」といったテーマに沿って、社員の知識・意識の向上を図っています。



リーダーシップトレーニング [ヨーロッパ]

2017年スタート

シマノヨーロッパは、社員の階層別のニーズに合わせた研修を行っています。テーマは、プレーヤーとして個人の能力を高めるための習慣や、チームを率いるリーダーへとステップアップするための実践的な知識、リーダーシップのレベルをさらに引き上げたいシニアリーダー・エグゼクティブリーダー向けのプログラムなど、多岐にわたります。



学生のインターンシッププログラム [アメリカ]

2014年スタート

Innovative Textiles, Inc. は、コロラド・メサ大学と提携し、人事、工学、情報技術、会計・財務を専攻する学生を対象にインターンシッププログラムを提供しています。



■ いきいきと働ける職場を目指して

シマノ本社は、「達成感と、よろこびを分かち合える、公正でいきいきとした職場づくりに努める」との経営方針から、社員の働きやすい環境づくりを進め、社員ごとの多様な働き方のニーズに応えることで、いきいきと働くことのできる環境の実現に努めています。

多様な働き方の面では、2022年から、時間や場所に捉われず、柔軟な働き方ができるよう時差勤務の拡充、時間単位で取得可能な有給休暇制度や在宅勤務制度を導入しました。

また、いきいきと働くことのできる環境の実現の面では、人事部門と健康管理室がストレスチェックの結果をもとにした部署へのフィードバックやサポートなどを実施しました。

シマノドリンキング [日本]

1978年に発足した社内サイクリングクラブ。社員自ら自転車レースを楽しむのはもちろんのこと、その体験をものづくりや販売の現場に落とし込み、新たな製品提案につなげるという重要な役割を担っています。



クラブ活動の充実 [日本]

野球部、フットサル部、華道部、着付けクラブ、ソフトボール部、釣り部、サーフィン部などが定期的に活動しています。部署や世代を超えた社員同士の交流の場として、心身ともに健やかに働ける職場づくりの一翼を担っています。



国際女性デー モーニングティー [オーストラリア]

2023年スタート

シマノオーストラリアは、国際女性デーを記念して、全社員を対象としたモーニングティーを開催しました。このモーニングティーは、働く女性を応援し、感謝を示すためのものです。



チームビルディング・アクティビティ [中国]

2022年スタート

シマノ上海は、社員を対象とした1泊2日のチームビルディングを実施しています。プログラム中、参加者はアウトドア活動体験やチームゲームを通じて、社員の結束力、コミュニケーション能力を高め、仕事への熱意を育みます。当プログラムは社員がより積極的に価値ある仕事に取り組む一助となっています。



チームビルディング・イベント [イタリア]

2023年スタート

シマノイタリアは、職場の連携をチームビルディング活動を通じて強化することを目的に、自然の中で過ごすオフサイトイベントを開催しました。



2. 労働安全衛生

シマノ本社工場では2018年から工場現場の安全特化型「守破離」プロジェクトを推進し、安全な職場を会社として整えられるよう取り組んでまいりました。現在は、海外工場にも活動を展開し、「安全な職場づくり」と「安全な人づくり」の両輪を動かし、仕組みづくりを強化・継続しています。

■ GOHS (Global Occupational Health and Safety) の展開

2023年、海外も含めた各工場間で、リアルタイムに労災・事故報告等を共有できるグローバルシステム「GOHS」を導入し、試験的に運用を開始しました。報告フォーマットを共通化し、関係者が即時に他拠点で発生した事例を閲覧できるだけでなく、その対策の進捗度合も見える化。既存の社内設備データベースとも連携し、労災・事故が起こったとき、シマノグループ内に存在する同じ設備や作業に対して再発防止の水平展開を素早く行うことを目的としています。グローバルベースでの情報共有により、さらに安全な職場づくりへの取り組みを進めていきます。



避難訓練 [インドネシア]

2012年スタート

シマノバタムは、火災避難訓練を毎年実施しています。火災に備えるためだけではなく、重大事故や自然災害など、あらゆる緊急事態が発生した場合に、いかに迅速かつ安全に避難することができるかを訓練しています。



QEHS キャンペーン [インドネシア]

2012年スタート

シマノバタムはQEHSキャンペーンを実施しています。品質(Q)・環境(E)・健康(H)・安全(S)に対する意識を高めるための毎年恒例の活動で、全階層の社員がゼロ災害に向けて事故防止に積極的に参加することを奨励しています。



環境・安全衛生リスクのワークショップ [シンガポール]

2008年スタート

シマノシンガポールは、各部門の社員を対象に法的リスクアセスメントのワークショップを開催しました。環境、労働、安全衛生、エネルギー、水資源のパフォーマンスを向上させ、法令遵守を徹底するため、定期的にこのような機会を設けています。



安全特化型プロジェクト [チェコ]

2022年スタート

安全をテーマとした本社発祥のプロジェクト「ShuHaRi(守破離)」を、2022年よりシマノチェコでも進めています。管理職やラインリーダーを対象に、生産と安全の関係の重要性を紹介し、危険予知能力の向上を図っています。

安全生産活動 [中国]

2002年スタート

シマノ連雲港は、毎年安全生産月間の活動を展開しており、社員が普段の生産作業で常に高い安全意識を維持し、労働災害を未然に防ぐこと目指しています。



AED (自動体外式除細動器) 講習 [日本]

2017年スタート

シマノセールス(株)は、社員の安全衛生意識の向上を目的として、AED講習会を開催しました。看護師や救命士の方を講師としてお招きし、AEDの使用手法や救命措置の手順について実技を中心に学習します。講習会は防火防災組織の救命措置担当及び受講を希望する社員を対象に実施し、より多くの人が知識を習得する環境を構築。それによりシマノセールスの安全衛生体制強化に繋がります。

イノベティブな製品開発を目指して

■『Clarivate Top 100 グローバル・イノベーター2023』アワード受賞

シマノは知的財産分野に関する功績が高く評価され、グローバルな情報サービス企業であるClarivate社（本社：米国フィラデルフィア）が選定する『Clarivate Top 100 グローバル・イノベーター2023』アワードを受賞しました。シマノでは発明の初期段階から、開発部門と知的財産部門が密に連携し、新たな価値の創造に取り組んでいます。



『Clarivate Top 100 グローバル・イノベーター』とは

このアワードは、Clarivate社が保有する世界最大級の付加価値特許データベース「Derwent World Patents Index (DWPI)」や特許調査・分析プラットフォーム「Derwent Innovation」などから抽出された厳格かつ客観的なデータから、独自の評価基準に基づき、革新的であること、知的財産権保護に積極的であること、また、世界に影響を及ぼすような発明をもたらしたことが認められた企業に贈られます。評価は2つのステップに沿って実施されます。ステップ1では「数量」、ステップ2では「影響力」「成功率」「グローバル性」「技術分野の広さ」の4つを軸に評価が行われます。

■ ライフスタイル・コンポーネンツ SHIMANO CUES

SHIMANO CUESは、スムーズなシフティング、E-BIKEでの走行に対応する頑丈さ、耐久性の高いギア設計などが特長の新製品です。日常生活で普段着で自転車を楽しむお客様にとって使いやすい製品であることを目指しました。既存のブランド・機能を統合し、ニーズに合わせてお使いいただけるよう多様なスペックを備え、幅広い自転車スタイルに対応する新ブランドとして立ち上がりました。



SHIMANO CUES

■ 汎用スピニングリール Vanquish (ヴァンキッシュ)

2012年に誕生したVanquishが4代目となるモデルチェンジ。「軽さ」のその先へ」をコンセプトに、新機能を搭載し進化を遂げました。ダイレクトな操作感と回転の軽さを重視したシマノのリールコンセプトの1つ「マグナムライト (MGL) シリーズ」の最高峰モデルにふさわしく、徹底的な「軽さ」はもちろんのこと、使いごこち、耐久性、パワーなど、あらゆる性能を追求しました。



Vanquish

■ アウトドア市場向けクーラー VACILAND (ヴァシランド)

釣り用クーラーで長年培った保冷力を活かし、アウトドア市場向けのフラッグシップモデルとしてVACILANDを発売しました。内部構造を見直し、氷保持期間はシマノ史上最長の13日を達成。アウトドアシーンで映えるようカラーや細部のしつらえまでデザインを徹底的にこだわり、アウトドアに便利な機能も満載です。商品名は「どこへ行くかよりも、どんな経験をするかという過程そのものを大切に旅」というスペイン語のVacilandoが由来です。



VACILAND

1.CO₂排出量の管理・削減

当社製品を楽しんでいただくフィールドである地球環境の改善と保全は、当社の重要な課題です。美しく良好な地球環境づくりに貢献するために、当社による継続的な環境負荷低減活動が必要と考えています。持続可能な社会づくりに寄与する活動は、同時に当社の競争力を高めることにもつながると考え、積極的に推進しています。

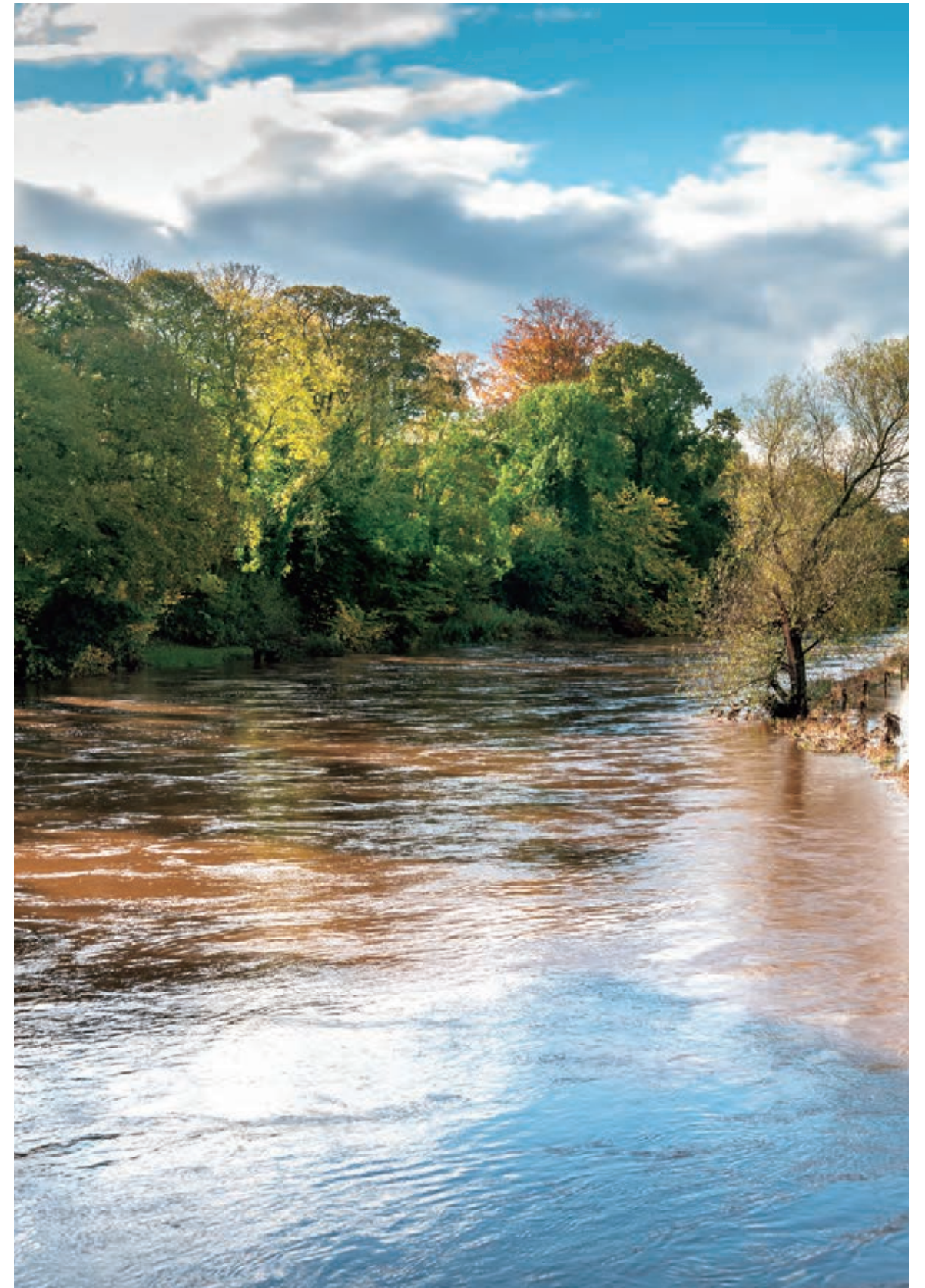
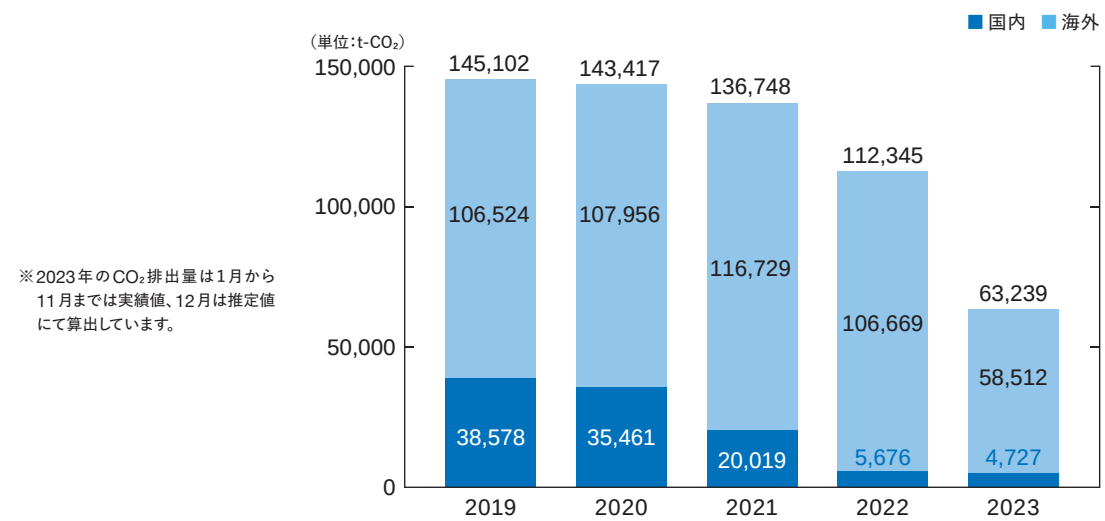
■ 気候変動への対応

高効率で無駄のないものづくり体制を構築しエネルギー使用量を削減したうえで、再生可能エネルギーへの転換も進めることでCO₂排出量の削減に努めています。

- 化石燃料を熱源とする設備から電気設備への切り替え
- 日本国内の製造拠点で使用する全電力を再生可能エネルギー由来の電力でカバー
- 一部の海外工場で再生可能エネルギー証書を購入

■ CO₂排出量（スコープ1+スコープ2）

※集計範囲：国内外の製造拠点すべて



2. 資源循環の促進

シマノは、企業価値向上と環境負荷低減を両立させる活動をグローバルで推進しています。持続可能な活動、すなわち「長続きする」ことを重視し、経済合理性があると同時に社会にも貢献でき、企業価値も高められることを指針とし、活動に取り組んでいます。

■ 主な国内拠点の活動

物流におけるパレットや通い箱のリユース

仕掛かり部品等を輸送する際に使用するプラスチック製の通い箱やパレットは、オイルが付着するなど汚れやすく、従来は頻繁に交換する必要がありました。現在は汚れたものを専用洗浄機で洗い、できる限り長くきれいに使用できるようリユースを行っています。また、社内で使われなくなったパレットの一部は、リユース市場へ展開し、資源循環に努めています。



汚れたものは仕分けを行い、洗浄を行ったのちにリユースされます

プラスチックコンテナ提供メーカー様へのリサイクル

物流で使用するプラスチックコンテナのうち、使用できなくなったものは販売元のメーカー様にすべて有価で引き取っていただき、100% マテリアルリサイクルを行っています。販売元のメーカー様では自社の製品へとリサイクルができるため、好循環を実現しています。



引き取られたコンテナは粉碎処理され、素材として再利用されます

工程から排出される不要な樹脂トレイのリサイクル

シマノ各工場、協力工場様などへの部品納品時に使用される樹脂トレイで不要となったものは、材質ごとに細かく仕分け、リサイクル業者に有価で引き渡ししています。引き取っていただいた樹脂トレイは再生材市場に流通し、形を変えた製品となって広く再利用されています。



集積後、分別された樹脂トレイはある程度の量を確保したのち、リサイクル業者様へ引き渡されます

3. 環境保全活動

釣り場の清掃活動 [イギリス]

2021 年スタート

シマノUKは、釣りを楽しむ豊かな自然を維持するため、釣り人の周囲のごみを拾い、釣り場環境を改善していく運動を後援しており、社員も自らオフィス周辺の清掃に参加しています。



植樹活動 [ポーランド]

2023 年スタート

シマノポーランドは、国際アースデイを記念して社員による植樹活動を行いました。



持続可能な製品開発 [ベルギー]

2022 年スタート

LAZER SPORT は、ヘルメット製品のカーボンフットプリントを可能な限り削減することを目標に、製造工程の削減、リサイクル素材の使用、ヨーロッパ域内生産などに取り組んでいます。さらに、使用後はさまざまな材料を分別して廃棄できるよう、ユーザー様が製品を分解できるように設計しています。製品のパッケージとラベルは再生紙を使用し、インクの使用は1色のに抑えています。



RIVER CLEAN への協賛 [フランス]

2023 年スタート

フランスの非営利団体 RIVER CLEAN は釣りをしながらごみを回収できるよう、再利用可能なごみ袋を配布することで、釣り人の環境保全を支援しており、シマノフランスはこの活動のパートナーとなっています。



ビーチクリーンアップ [オーストラリア]

2023 年スタート

シマノオーストラリアは、オーストラリア北部で行われたビーチクリーンアップに参加し、行政機関や非営利団体と協力して、海洋ゴミを回収しました。

使用済み釣り用品の回収ステーション [オーストラリア]

2023 年スタート

シマノオーストラリアは、釣具店様と協力し、約50か所の使用済み釣り糸や釣り用品の回収ステーションを導入しました。使われなくなった釣具のリサイクルと適切な回収・処分を目指します。

ビーチクリーンアップ [シンガポール]

2023年スタート

シマノシンガポールは50名の社員やその家族とともに、約1.5kmに及ぶイーストコースト・パークを清掃。ペットボトル、ストロー、プラスチック食器など海岸に流れ着いた約35kgのゴミを拾いました。



排水管理のシステム化 [シンガポール]

2023年スタート

シマノシンガポールは、環境、人の健康、その他多くの生物への悪影響を未然に防ぐため、排水管理を継続的かつ綿密に行っています。シマノシンガポールでは、排水処理をデジタルで監視し、担当者が即座に対応できるシステムを開発・確立しました。



地域の清掃活動 [日本]

2006年スタート

シマノ熊本は、地域への貢献として近隣の清掃活動などを年間2回（春・秋）行っています。



アセトンのリサイクルを実施 [アメリカ]

2006年スタート

Innovative Textiles, Inc. は、廃棄染料を工業用溶剤リサイクル装置で処理し、アセトン成分を蒸留します。このアセトンは新しい染料を作るために再利用することができ、結果的に当社が出す有害な廃棄物も削減しています。

シマノグリーンプラン

[グローバル] 2004年スタート

2004年以来、環境負荷・健康負荷の低い製品づくりを行うための指針として、シマノグリーンプラン（以下、SGP）を策定し、協力会社様と協働してその遵守に取り組んでいます。

■ 環境負荷・健康負荷の低減

SGPは、当社製品を構成する原材料・部品・製品に含まれる化学物質の規制値を明確にし、協力会社様にも周知徹底することで、環境負荷・健康負荷のより少ない製品と安心を世界中のお客様にお届けすることを目的とした調達基準です。年々厳しくなる国内外の法規制や顧客要求に応じてSGPを改訂し、協力会社様へ理解と協力を要請するとともに、社内の分析機器や外部分析機関の活用により製品の適合確認を行い、お客様に信頼される製品づくりを進めています。



■ 法規制遵守への取り組み

2023年も法規制への対応に向けて取り組みを進めてきました。

- 新たな法規制を取り入れたSGP改訂版を発行
- 国内および海外SGPコミッティーメンバーと情報共有し、連携して対応
- EU RoHS指令の一部適用除外品目終了に対してシマノ製品の代替調査



海外SGPコミッティーメンバーとのオンライン会議の様子

■ 化学物質問い合わせ対応

環境や健康への意識の高まりとともに、EUのREACH規則^{*1}、POPs規則^{*2}、RoHS指令^{*3}などの各国法規制の遵守や、お客様である完成車メーカー様の自主基準への適合を要求されることも増えています。当社では、お客様からの各種問い合わせを受け付け、SGP遵守状況と照合し、その結果を回答文書や適合宣言書にまとめ提供しています。また、EUでの高懸念物質の登録・公開制度に沿った情報開示を実施しています。

^{*1}: 化学品の登録、評価、認可及び制限に関する規則

^{*2}: 残留性有機汚染物質に関する規則

^{*3}: 電子機器における特定有害物質の使用制限に関する指令

■ 企業価値を高める活動へ

要求が複雑化する法規制に迅速に対応するためには、これまで蓄積した情報を短時間で的確に抽出することが不可欠と考えています。事務的負担軽減を含め、システム導入による効率的な情報コミュニケーションの実現に向けた活動に取り組んでいます。今後もサプライチェーンにおける製品含有化学物質管理を強化し、環境や健康に配慮した製品づくりを継続して推し進め、企業価値の向上を目指します。

4. 自転車通勤の推進

シマノでは、自転車通勤を積極的にサポートしています。電車の混雑や交通渋滞を避けられ、環境・健康にも良いとされる自転車での通勤は、年々その価値が高まっていると考えます。

<取り組み事例>

- 自転車通勤をする社員が職場で快適に過ごせるように考えられた設備

本社には、自転車通勤者のために約1000台が収容できる駐輪場が整っています。浴場をはじめシャワーブース、ロッカールームを完備。また、コンプレッサー式空気入れや共用工具も備え、自転車のメンテナンスもしやすい環境になっています。また、社員寮・社宅にも自転車を安全に保管できる駐輪場や整備スペースを備え、社員の自転車利用をサポートしています。

- 約4割が自転車通勤

堺の本社では、約4割の社員が自転車通勤の登録をしています。

- 自転車通勤手当の支給

自転車通勤を奨励するための手当を支給しています。

- ヘルメット購入補助金の支給

自転車通勤用のヘルメットの購入代金に応じて一定の補助金を支給しています。

- 社内自転車講習の実施

希望する社員を対象に、自転車の種類や特徴、自分に合った自転車の選び方などについて学べる講座を実施しています。

「自転車通勤推進企業」宣言プロジェクト「優良企業」に認定

国土交通省が実施している「自転車通勤推進企業」宣言プロジェクトでは、自転車通勤を積極的に推進する企業・団体を「宣言企業」として認定しています。2022年5月、その中でも特に優れた取り組みを実施しているとして、株式会社シマノは「優良企業」に認定されました。今後も自転車部品を製造する企業として、自転車文化の向上を目指す活動に注力しながら、地球環境保全や皆様の健康に役立てる自転車の活用推進も着実に進めていきます。



自転車通勤プログラム [チェコ]

2010年スタート

シマノチェコは、継続的にGo to Work by Bikeという国をあげてのプログラムに参加しています。2023年は32名の社員が11チームに分かれて参加し、5月の1か月間で合計15,000kmを自転車通勤しました。



自転車通勤を推進 [スウェーデン]

2023年スタート

シマノスウェーデンは、社員の自転車通勤をサポートしています。自転車を洗車し、メンテナンスするための作業場をオフィスに設置。また、E-BIKEの充電が可能な駐輪場も備えています。



自転車月間 [ベルギー]

2023年スタート

LAZER SPORTは、4月を自転車月間とし、普段はあまりサイクリングをしない社員も含めて自転車通勤を奨励しました。同期間には、社員によるグループライドも開催し、社員自ら自転車文化を体感しました。



モビリティ・ハブ [イタリア]

2021年スタート

シマノイタリアは、モビリティ・ハブ*を設けることで、企業のモビリティ活用を促進しています。これは、自転車通勤を選択する社員、パートナー企業などを支援し、シマノの企業理念に沿った社会へのポジティブな影響を生み出すためのものです。

* 自転車通勤をサポートするためのスペース



II

企業文化の醸成

Closer to Nature, Closer to People

人と自然のふれあいの中で、新しい価値を創造し、健康とよろこびに貢献する。

私たちはこの使命のもと、当社の事業領域に則りシマノならではの活動を展開しています。

その活動の中心となっているのが「企業文化の醸成」です。

とくに、自転車文化・釣り文化の創造については長年にわたり取り組んできたテーマであり、

ますます広がりを見せています。

また、シマノならではの躍動するひとづくりは、これからの企業を創造していくものと考えています。

さらに、地域社会への積極的で地道な貢献もまた、

シマノの企業文化を育んでいく上で欠かせないものと考えています。

■ 自転車文化・釣り文化の創造 26

人々に自転車・釣り・ロウイングの楽しさをこころから感じていただける製品——それが「こころ躍る製品」です。そして、その楽しさをより多くの人々に伝え、その機会を提供していくことも、当社の重要な活動の一つです。当社が主催・協賛している様々な自転車・釣り・ロウイングのイベントは、人々の楽しみの場であるとともに、交流の場にもなるものとして大切にしています。

ここでは、シマノが価値創造企業として取り組んでいる文化創造活動について、①イベント開催・サポート活動 ②文化発信拠点 ③その他文化活動 ④文化発信メディアに分けてご紹介します。



■ 躍動する人材 48

社員一人ひとりの在りようは、企業文化に大きく関わり、企業の未来を形づくっていくといっても過言ではありません。シマノでは、社員としての基本的な在り方を伝える研修だけではなく、企業文化の醸成に向けて、社員自身の自発的・能動的な学びの場と機会をつくっています。その代表的なものとして、社内大学「SHIMANO CAMPUS」と、シマノ独自のリーダーシップを育むLTSP (Learning Team Shimano Program) があります。この二つの具体的な活動をご紹介します。



■ 地域社会への貢献 52

地域社会とのコミュニケーションを密にし、企業市民として共存・共栄を図ることは、当社の理想とする企業姿勢です。シマノでは企業文化の醸成という視点から“Closer to Nature, Closer to People”というタグラインに適う活動として日本はもとより世界各地に拠点を置く地域社会の一員として取り組んでいます。全世界に広がるチームシマノの拠点は、より深い信頼を育んでいくための活動を継続して行っています。



1. イベント開催・サポート活動

国際的なプロレースからローカルのサイクリングイベントまで、世界で開催されている自転車競技やイベント。釣法や道具の進化で新たな楽しみが広がっていく釣り最前線のフィールド。シマノはそれらの現場を支え、後押しする継続的な活動を通じて、自転車文化・釣り文化の振興と社会的価値の向上に努めています。

A.S.O.主催レースのニュートラルサポートパートナーとして

2021年より、シマノはA.S.O.*が主催する自転車レースのニュートラルサポートパートナーとして活動しています。ニュートラルサポートの主な役割は、機材を積んだ自動車でレースに帯同し、レース中に発生した選手のあらゆる機材トラブルに対応することで、全ての選手が一刻も早くレースに復帰できるようサポートを行います。シマノは長年にわたるニュートラルサポートの経験とノウハウを活かし、これまで以上に自転車レースへ貢献するとともに、シマノブランドへのさらなる信頼感の醸成につなげていきます。

*Amaury Sport Organisation :
ツール・ド・フランスをはじめ、世界的なスポーツ大会の主催を行うフランスのスポーツメディアグループ



シマノバイカーズフェスティバル

シマノは2023年7月29日(土)・30日(日)に、長野県富士見パノラマリゾートにて第31回「シマノバイカーズフェスティバル」を開催しました。様々なスポーツバイクの楽しみ方を提供するマウンテンバイクの祭典であり、2日間で延べ約1900名の参加者を迎えることができました。

2023年には、例年のクロスカントリーやダウンヒルなどのレース種目や、オフロード、オンロードのツーリング種目に加え、レースでもツーリングでもない新種目として、「Trail Ride+ (トレイルライドプラス)」を設置。タイムや順位にこだわることなく、初心者から中・上級者までマウンテンバイクの楽しさを満喫できる新種目として人気を集めました。出展者様ブースにもアウトドアの要素が加わり、レースやツーリング種目以外の面でも会場は盛り上がりを見せました。当日は約130名の社員がスタッフとして現地で大会をサポートしました。



シマノバイカーズフェスティバル × 社内大学「SHIMANO CAMPUS」

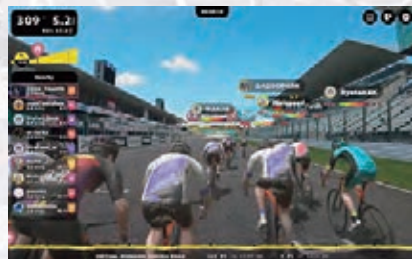
マウンテンバイク初心者のシマノ社員を対象とし、シマノバイカーズフェスティバル開催地である富士見の街をE-マウンテンバイクで巡るツーリングプログラムを実施しました。南アルプスとハケ岳連峰に囲まれた豊かな自然を満喫し、また坂道の多い地形のなかでE-マウンテンバイクのアシスト力を社員自身が大いに体感する機会となりました。

シマノ 鈴鹿ロード



バーチャルシマノ鈴鹿ロード

2022年に引き続き「バーチャルシマノ鈴鹿ロード」も開催しました。実写映像でインドアサイクリングを楽しむことができるサービス「ROUVY（ルービー）」を使用し、シマノ鈴鹿ロードのコースをバーチャル空間に完全再現。海外からの参加もあり、実際に現地まで足を運ぶことが難しい参加者にもレースを楽しんでいただくことができました。



シマノは2023年8月19日（土）・20日（日）、三重県の鈴鹿サーキットにて第38回「シマノ鈴鹿ロード」を開催しました。初心者から国内外のトップレーサーまで、また子どもから大人まで楽しめる自転車ロードレースイベントであり、2日間で延べ約8000人の参加者を迎えることができました。今年は中学生から参加可能な種目を増やすなど、若い選手が力をつける場をさらに拡大しました。また、JCF*公認レースである「シマノ鈴鹿ロードレース クラシック」では、ハイレベルな勝負に会場は興奮と熱気に包まれました。出展者様ブースも人気を集め、スポーツバイクファンの皆様に新製品などを知っていただく機会となりました。当日は約110名の社員がスタッフとして現地で大会をサポートしました。

*日本自転車競技連盟（Japan Cycling Federation）

シマノ鈴鹿ロード × 社内大学「SHIMANO CAMPUS」

スポーツバイク初心者のシマノ社員を対象とし、ロードレースデビューとしてのシマノ鈴鹿ロード出場をサポートするプログラムを実施しました。「初めてのレース経験ができて楽しかった」「参加者目線での新たな気づきを得ることができた」といった声があり、社員自身が自転車文化をより理解するための機会となりました。



SHIMANO FEST 2023



ブラジルのサンパウロでSHIMANO FEST 2023が開催されました。2010年からシマノラテンアメリカが主催する本イベントは、ラテンアメリカ最大級のサイクルイベントです。

2023年は過去最多の50,250人の来場者を記録。マウンテンバイクレース、多様なライドコース、BMXショー、トークイベントなど、幅広い世代が楽しめるコンテンツを用意し、自転車文化の創造・発展を目指しています。ビギナーからエキスパートまで、またあらゆるジャンルの自転車ファンが集い、終始大変な盛り上がりを見せました。

SHIMANO FEST 2023では#biketransformaをテーマに、自転車の活用を推進。自転車に乗ることは健康的で持続可能な活動であり、自転車イベント自体も持続可能であることを訴求しました。会場でのごみの分別と廃棄物の適切な処理はもちろんのこと、子どもたちへの環境教育プログラムなども提供しました。また、前年のイベントで使用した防水シートをリサイクル業者様のご協力のもと、エコバッグやサドルバッグにリサイクルする活動も行いました。

■大会概要

- 日程：8月17日-18日 Trade Days（業界関係者のみ）
8月19日-20日 Festival Days（一般公開）
- 入場料：無料
（来場者には慈善団体に寄付するため食料品1kgの提供をお願いしています）
- 総来場者数：約50,250人（4日間累計）
- 食料品の寄付：約8トン



その他自転車イベント等

① ツール・ド・東北 テクニカルサポート

〔日本〕2013年スタート

東北震災の復興支援として2013年に始まったツール・ド・東北。2023年は第10回記念大会として開催され、全国からの参加者が楽しく安全に走行し、地元の応援に応えられるように、シマノはテクニカル・サプライヤーパートナーとして協力しました。

② イベント会場への自転車での来場を奨励

〔イタリア〕2023年スタート

シマノイタリアは、ボローニャで開催され2万人以上が訪れた第1回「シクロツーリズムフェア」で、参加者に車ではなく自転車での来場を促すため、会場付近にバイクパークを設置。期間中、1,800人以上が自転車で来場しました。また、地域のシマノサービスセンターに働きかけ、自転車で来場した人に無料の点検サービスを提供しました。

③ 交通安全運動のサポート〔ブラジル〕

2017年スタート

シマノラテンアメリカは、Yellow May運動（交通安全運動）を推進するため、サイクルレーンでのサポートや自転車メンテナンスのヒントを無料で提供しています。

④ インターンシップ・サイクリング・プログラム

〔シンガポール〕2017年スタート

シマノシンガポールは、インターン生対象のサイクリング・プログラムを実施しています。シマノの「Closer to Nature, Closer to People」という理念に触れていただき、スポーツ・レジャーとしてのサイクリング文化への理解を深めるための活動です。

⑤ Shimano Blue Race〔シンガポール〕

2018年スタート

Shimano Blue Raceは、タイで毎年開催されるグランフォンド・サイクリングイベント。サイクリストが自分自身のレベルに合わせて、風光明媚なサイクリングルートを楽しむことができます。シマノシンガポールはこのイベントで、シマノブースでの展示やニュートラルサービス、試乗などを提供しています。

⑥ Philippines Cycling Festival〔シンガポール〕

2022年スタート

シマノシンガポールが協賛するフィリピン・サイクリング・フェスティバルは、入門者からプロのサイクリストまで楽しめる一大サイクリング・イベントです。入門者に優しいレースイベント、各ブランドの商品展示、教育的なサイクリング講演、子どもが参加できる家族向けアクティビティなどを通じて、フィリピンのサイクリング文化発展を目指しています。

⑦ バーチャル・シマノ鈴鹿ロードとの

コラボレーション〔シンガポール〕2023年スタート

SHIMANO CYCLING WORLDは、シンガポールから日本で開催されたシマノ鈴鹿ロードのバーチャルレースに参加できるよう、トレーナーと機材を提供。お客様は日本の鈴鹿サーキットのバーチャル走行を楽しみました。

⑧ Shimano Carnival〔中国〕

2023年スタート

シマノ上海は、シマノカーニバルを開催しました。シマノの理念である「Closer to Nature, Closer to People」に基づいた、釣り文化と自転車文化が交わるイベントです。「サイクリングを愛する人々に釣りを知ってもらい、釣りをする人々にサイクリング文化に触れ、理解してもらう」を目的に、様々なコンテンツをご用意し、約1,000人の参加者に新たな体験を楽しんでいただきました。

⑨ ニュートラルサポートの提供〔トルコ〕

2008年スタート

Presidential Cycling Tour of Turkeyは、多くのプロチームが世界3大ロードレースへの準備レースに位置づける大会で、トルコで最も権威のあるスポーツイベントの一つです。シマノトルコは、本大会でニュートラルサポートを行いました。

⑩ マウンテンバイク・リーグのレースサポート

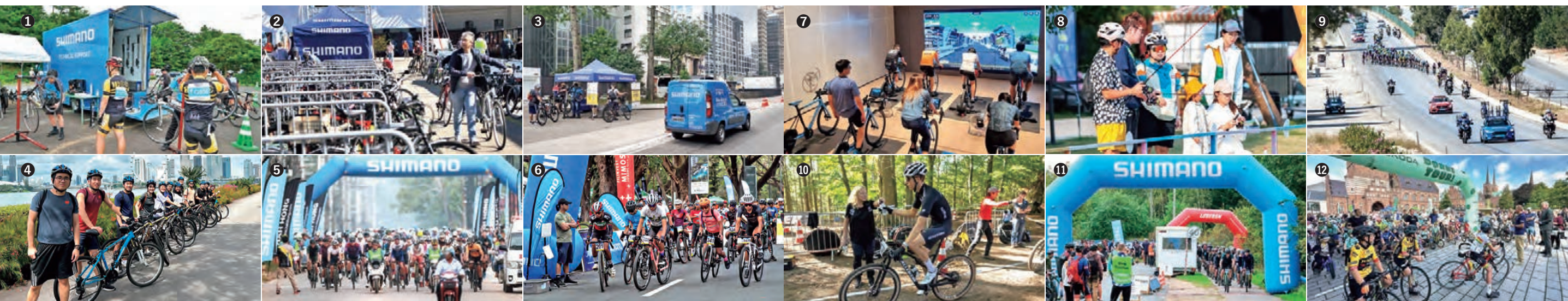
〔デンマーク〕2018年スタート

⑪ 地元クラブが主催する マウンテンバイク・イベントのレースサポート

〔デンマーク〕2021年スタート

⑫ 「ツール・ド・フランス」に関連した 地元の様々な子どもたち向けの 自転車フェスティバルをサポート

〔デンマーク〕2022年スタート



シマノジャパンカップ

シマノは釣具製品のみならず、釣りを楽しめる“場”の提供を目的に、1984年から「シマノジャパンカップ」を主催しています。第1回より変わらない、社員自らが主体となって釣り文化をつくり上げるという想いのもと、2023年も多くの社員が各地へ赴き、スタッフとして運営を支えました。シマノジャパンカップは現在、全5釣種（磯・鮎・投・へら・クロダイ）で行われ、釣り人口の拡大や釣りの社会的地位の向上を目指して全国各地で開催されています。また、開催地である地域・行政とも連携し、観光支援や釣り場の清掃活動、釣魚の地元施設への寄贈など、地域貢献活動にも力を入れています。



その他海外釣りイベント等

ユーザー様向け釣りイベント [イギリス]

2021年スタート

シマノUKは、英国で毎年開催されている全国釣り月間に合わせてイベントを開催し、たくさんの方に釣りをお楽しみいただきました。同期間、業界各社は、リラクゼーションやアウトドア、自然を楽しむ一つの形として、ユーザー様向けに釣りを体験してもらうためのイベントを開催しています。



サーフキャスティング・カップ [フランス]

2023年スタート

シマノフランスは、サーフキャスティング・カップを主催。80名の競技者による大会は大いに盛り上がりました。子どもたちに釣具や釣りについて教え、ごみ拾いをするプログラムも併せて実施しました。



釣りの楽しさを伝え、守るプロジェクト [イタリア]

2022年スタート

シマノイタリアは、若手起業家とのパートナーシップを強化し、国立公園内での観光客向けの釣りサービスやイベントを提供。また、地元の学校と協力して、子ども向けプログラムも実施しています。同時に、国立公園管理局の協力のもと、余暇としての釣りを発展させ、地域経済の活性化を図るため、釣りのルール整備や魚の産卵保護などにも取り組み始め、稚魚の数が増加するなど徐々に成果を出しています。



Kids Fishing Clinics [オーストラリア]

2022年スタート

シマノオーストラリアがスポンサーとなり、オーストラリア全土で地元のフィッシングクラブによるキッズ・フィッシング・クリニックが開催されています。これは、子どもたちにアウトドアの楽しさと釣りの基本を教えるためのイベントで、参加した子どもたちには、シマノのギフトバッグが贈られました。



2. 文化発信拠点

LIFE CREATION SPACE OVE（東京）

自転車の価値を再定義することで、
豊かなサイクルライフスタイルを提案

さらなる自転車文化の発展と、普段あまり自転車に乗らない人も含めより広く自転車の楽しみを知ってもらう機会の提供を目的に2006年にオープンした「LIFE CREATION SPACE OVE」。「OVE」にはOpportunity（機会）、Value（価値）、Ease（気楽さ、容易さ）という理念とともに、人々がこれまでの自分を超越して魅力的なライフスタイルを探究する「Over Myself」という想いが込められています。店内には書籍、雑貨などのセレクトアイテムを置き、各種イベントやセミナーも実施。新しい自転車文化の創造を目指しています。

2023年も様々なテーマで、自転車で散歩するように価値あるモノ・コトをめぐり、その場所、その時間ならではの出会いや発見を楽しむ「散走」をはじめ、暮らしに新たな豊かさを提案する多種多彩なイベントを実施。さらに、「自転車のある生活」をこれから始めたい方やさらに深めたい方に向けて、自転車の基本的なメンテナンスなどをお伝えする「OVEのがっこう」も毎月実施しました。



SHIMANO SQUARE（大阪）

都市における「知的創造・交流の場」として
上質な自転車と釣りの世界を伝える

2017年にオープンした「SHIMANO SQUARE」。大阪市北区のグランフロント大阪・ナレッジキャピタルという多くの人が行き交う環境を活かし、自転車・釣りを通じたライフスタイルを提案するとともに、シマノが創造する文化的価値や製品の魅力を伝えることを目指しています。カフェやブックライブラリー、自転車・釣りの製品展示を行っています。また講習会や各種ワークショップ、「散走」などのサイクリングイベントを開催しています。屋外イベントとして、散走と釣りを同時に楽しんでいただく「RIDE & FISH」イベントにも注力し、キャンプとも絡めたアウトドアスポーツの楽しみ方を提案しました。



SHIMANO EXPERIENCE CENTER (オランダ)

自転車・釣り・ロウイングの楽しさをより多くの人に

ドイツ・ベルギーとの国境に近いオランダ南部の街、ファルケンブルグ。自転車のプロロードレースの開催地としてもサイクリストに有名なこの街に、2019年オープンしたのが「SHIMANO EXPERIENCE CENTER」。

施設内は自転車部品、釣具、ロウイングと、シマノの事業領域全てを集約。豊富な展示とバーチャルディスプレイやシミュレーターを備え、牧歌的で美しい周辺環境の中、実体験を通じてシマノ製品に直接触れ、最新の技術を体験できる場を提供します。ラウンジやワークショップエリアでは、ビジネス関係者や地域の学校、サイクリングクラブなどの団体にイベントを行う機会を提供するとともに、子ども向けの様々なイベントを主催。多くの人々に自転車、釣り、ロウイングの楽しさを訴求し、訪れるたびに新たな発見や体験を提供し続ける場所を目指しています。



SHIMANO CYCLING WORLD (シンガポール)

東南アジアにおける自転車文化の発展と
シマノブランドの浸透に向けて

シンガポール中心部にあるアジア最大級のスポーツ複合施設 Singapore Sports Hub内に2014年にオープンした「SHIMANO CYCLING WORLD」。

自転車をテーマとした広さ約650㎡の体験型展示施設で、シンガポールにおける自転車文化の発展と、ライフスタイルとしての自転車利用の推進、さらには東南アジアにおけるシマノブランドの浸透を目的に、人々が自転車をより身近に感じ、新しいライフスタイルを実現できるよう様々な提案を行っています。2023年は、日本で開催されたシマノ鈴鹿ロードとのコラボレーションによるバーチャルレースイベントや、自転車で様々な史跡を巡り、シンガポールの歴史に触れるツアーなど、多彩な企画を実施しました。

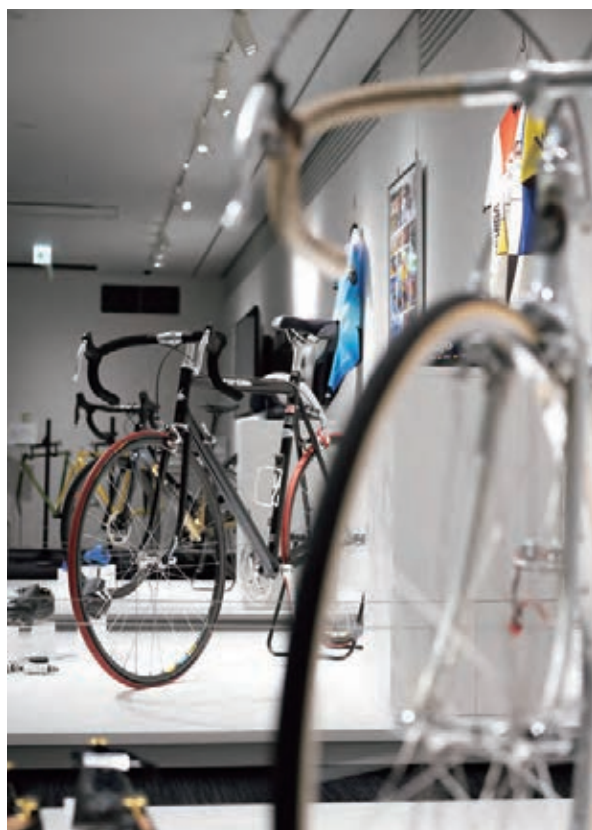


シマノ自転車博物館（大阪）

豊かな自転車文化の継承と創造を目指して

（公財）シマノ・サイクル開発センターが「自転車博物館サイクルセンター」を1992年4月に、大阪府堺市の大仙公園内に開館しました。この博物館は日本で唯一の自転車専門登録博物館です。2022年3月、南海電鉄堺東駅近辺に移転し、「シマノ自転車博物館」として新しくオープンしました。

「ここへ来れば、だれもが自転車に乗りたくなる」をコンセプトに、多様な視点から自転車の魅力を発信し、自転車の真価の発見と自転車に乗りたくなるような気持ちの創出を目指します。一般のお客様だけではなく、地域の小学校の校外学習なども積極的に受け入れており、2023年も多くの児童が来場学びを深めました。毎年小学生を対象に実施している「夏休みこども絵画コンクール」では、自転車にまつわるテーマの絵画を募集。2023年も32,283点という多くの応募をいただき、その中から入選作品を表彰し博物館内に展示して多くの方に見ていただきました。



3. その他文化創造活動

第6回「ソーシャル×散走」 企画コンテストの実施

エコな乗り物である自転車で、地域の魅力やストーリーを楽しむ「散走」は人や地球に優しい暮らしにも通じています。シマノは社会課題の解決に関心の高い学生を対象として、“環境・交流・健康”をテーマに持続可能な地域社会を育む散走企画を募集し、優秀作品を表彰する「ソーシャル×散走企画コンテスト」を実施しました。第6回となる2023年は18チーム77名の参加となり前年より参加チームは縮小したものの、内容が濃く質の高いコンテストになりました。その中から特に優れた6チームを選出し、12月にシマノ自転車博物館（大阪府堺市）にて最終審査会を開催し、大賞・特別賞チームを表彰しました。



シマノレーシング

シマノレーシングは、1973年の創設以来、日本チャンピオンや五輪代表選手を輩出している自転車競技チームです。トレーニングや実戦での評価を製品開発にフィードバックするという、テストライダーとしての重要な役割も担ってきました。現在はその役割に加え、国内レースシリーズの発展支援やファンに向けた情報発信、初心者や子ども向けの自転車教室など、長期的かつ広い視野を備えたサイクリススポーツ文化の創造を目指し、活動しています。

2023年度 主な活動

03/25 「J pro tour袋井・掛川ロードレース DAY1」	中井 唯晶 選手	3位
03/26 「J pro tour袋井・掛川ロードレース DAY2」	入部 正太郎 選手	2位
04/30 「J pro tour東日本ロードクラシック DAY2」	中井 唯晶 選手	2位
04/30 「J pro tour東日本ロードクラシック DAY2」	入部 正太郎 選手	優勝
06/23 「全日本選手権タイムトライアル2023 男子U23」	寺田 吉騎 選手	優勝
09/17 「J pro tour南魚沼クリテリウム」	石原 悠希 選手	優勝
09/23 「J pro tour群馬CSCロードレース9月大会 DAY1」	中井 唯晶 選手	優勝
09/24 「J pro tour群馬CSCロードレース9月大会 DAY2」	中井 唯晶 選手	優勝
10/22 「J pro tourかすみがうらロードレース」	寺田 吉騎 選手	2位
11/12 「ツール・ド・おきなわUCI1.2」	風間 翔真 選手	2位



シマノレーシングの選手たちによる
堺市の小学生向け自転車教室



4. 文化発信メディア

自転車と健康

『Cyclingood』『MIND SWITCH』

自転車と一緒につくる、 健康的で豊かな暮らしの提案

自転車運動によるエネルギー代謝や筋力の維持・増強、そしてメンタルとの関係性など、幅広いテーマについて大学や研究機関と共同で実施してきた研究の成果を、企業や自治体に共有することを通じて、人々の健康づくりに貢献しています。

こうした社会的アプローチの一方、自転車を取り扱う店舗や健康に関心のある施設、ユーザー様向け、自転車と健康の関わりを中心とした情報媒体『Cyclingood』（サイクリングッド）のフリーペーパーとウェブサイトを展開。省資源化の観点から、フリーペーパーはVol.035（2023年7月末）で発行を終了し、現在はウェブサイトでの情報発信に力を入れています。また、このウェブサイト内では、研究結果を分かりやすく表現した「Health Data File」を紹介し、自治体や企業様に、自転車まちづくりや、住民・社員の健康づくりなどのためにご活用いただいています。

その他にも、自転車通勤に役立つあらゆる情報をまとめ、「通勤サイクリング」を提案するウェブサイト『MIND SWITCH』（マインドスイッチ）を運営しています。

持続可能な社会を目指す上で、「健康」はさらに重要性を増しています。シマノはこれからも、自転車の魅力や価値を多くの人に伝えることにより暮らしを豊かにする取り組みを通じ、業界や社会の発展に貢献していきます。



『Cyclingood』



自転車運動による効果をデータを用いて解説

東北	岩手県	国土整備部 道路整備課
	宮城県仙台市	市民生活安全安心部 自転車交通安全課
関東	茨城県神栖市	企画部 政策企画課
	神奈川県横浜市	道路整備部 交通安全・自転車対策課
	神奈川県川崎市	建設経済部 自転車利用推進課
北陸	新潟県	土木部 道路管理課
	石川県金沢市	交通安全課
東海	岐阜県	国土整備部 道路維持課
	静岡県小山町	経済産業部 商工観光課

「Health Data File」の自治体での活用事例を『Cyclingood』ウェブサイトで紹介



『MIND SWITCH』

釣りの魅力発信

『Fishing Café』『釣り百景』『おとな釣り倶楽部』『SHIMANO TV』

シマノは時代とともに進化し、発展してきた“文化としての釣り”の楽しさを、より多くの人々に紹介する活動を大切にしています。国内におけるその活動の一つが、クロスメディアによる情報発信やコラボレーションであり、これらは釣り文化の創造を図り、釣り業界の振興と発展を目指した継続的な取り組みです。

『Fishing Café』

釣りを愛する全ての人が、気ままに集ってお茶でも飲みながら釣りについて語り合うことができれば…という想いから始まった『Fishing Café』。新しい釣り文化の創造を目指して、文化的・社会的視点から釣りの楽しさや魅力を伝えていきます。マガジンから始まった『Fishing Café』は現在、ウェブサイト、YouTube動画、ラジオ放送と媒体を拡げ、釣り文化を発信し続けています。



年3回発行している『Fishing Café』マガジン

『釣り百景』

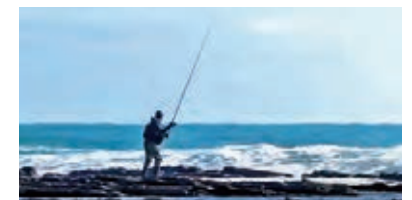
各界の著名な釣り人やその道を極めたアングラーたち。それぞれの釣りスタイルや信念、個性豊かな人物像にスポットを当て、多種多様な釣りのスタイルと雄大な自然の中で紡がれる人間ドラマを描き出しています。



釣り紀行番組『釣り百景』

『おとな釣り倶楽部』

釣りを中心とした余暇の過ごし方を提案し、人生をより豊かにすることを目的としたシニア世代向けプロジェクト。TV番組をはじめ、YouTubeによる動画配信も展開しています。



『おとな釣り倶楽部』YouTubeによる動画配信

『SHIMANO TV』

シマノのYouTubeチャンネル『SHIMANO TV』は、多彩な釣り動画を24時間365日お楽しみいただけます。新製品に関する動画だけではなく、初心者向けの釣り教室や、釣りや自然を愛するインストラクターによる対談など、釣り文化を伝えるコンテンツも好評をいただいています。



YouTube『SHIMANO TV』公式チャンネル

1. 社内大学「SHIMANO CAMPUS」

2022年3月にオープンした社内大学「SHIMANO CAMPUS」。社員が学びたい時に自発的に訪れ、興味のある科目を自ら選択して学ぶことができます。シマノ社員として、社会人として、そして仕事のプロとしての知識や実践知を高めていくための学びを提供しており、そのキーワードは「知」の創造。新しい知識との遭遇の場、知識の実践・実体験の場、社員同士がつながり合うことで新たな知の創造を促すことを目的とし、バーチャル（web）×リアルハイブリッドで運営しています。2023年3月には、バーチャル（web）ページの海外展開を開始しました。今後はさらに海外拠点の社員にも役立つコンテンツを増やし、より活気のあるグローバルな学びの場をつくっていきます。



SHIMANO CAMPUS (web)

学びのコンテンツ

業務の専門知識を学ぶ「Innovation学部」と、一般教養の「Team Shimano学部」の2学部があり、それぞれに学科を設置。Innovation学部には生産技術学科、品質保証学科など部署ごとに特化した教育コンテンツを取り揃えています。Team Shimano学部には、シマノ社員として必要なこころざしやDNAを高める「Philosophy学科」と、社会人としての教養を深める「リベラルアーツ学科」があります。社員はweb上で様々な学科のコンテンツにアクセスできだけでなく、リアルで行われる講座やセッションに就業時間内で参加することができます。



SHIMANO CAMPUSの4つの機能



<ライブラリー>

社内図書館は誰でも自由に利用可能。2023年は、より簡単に貸出・返却処理ができるシステムを導入し、利便性を向上しました。書籍購入リクエストも随時受け付けており、幅広いジャンルの書籍を700冊以上取り揃えています。またweb上では、シマノに関する歴史や理念、専門業務に関する知識、また一般教養を学べるコンテンツを閲覧することができます。



<オーディトリウム>

シマノの歴代社長のストーリー、製品誕生秘話などをテーマとした動画を定期的にweb上で更新。文章だけでなく、より訴求しやすい映像と音声を積極的に活用しています。またwebだけでなく対面での学びの場を提供。例えば、歴史を伝える動画上映の後に、当時を知る社員の解説を聴く「語り部セッション」や、自転車や釣りへの知識を深めるセミナーも頻繁に実施しています。



<ひろば>

「これって誰に聞けばいいの?」という疑問に対してサポートをする質問投稿の場をweb上に設けています。疑問を解消するだけでなく、投稿を機に「人と人」をつなげるという役割も持ち合わせています。



<フィールド>

事業領域である自転車・釣り・ロウイングの世界への理解を深めるため、製品をつくる現場・売られる現場・使われる現場で〈フィールド〉体験するプログラムを用意しています。実際に自らが体験することで見える景色は大きく変わります。

SHIMANO CAMPUSはこれからも社員の声を集めながら内容の充実・改善を行い、時代に合わせて変化を続ける「完成」することのない学びのプラットフォームを目指します。2023年3月には海外拠点への展開をスタート。自発的な学びのサポートはグローバルな視点で進めてまいります。

2.Learning Team Shimano Program 海外拠点向け 次世代リーダー研修

シマノ創業の地である堺で、チームシマノの理念やシマノの歴史、会社が目指す方向性について理解を深め、グローバルリーダーとしてのマネジメント力を養うことを目的に2015年から実施してきました。2023年は世界各国から計14名の次世代リーダー候補となるメンバーが参加しました。

約1週間にわたる研修のテーマは、大きく分けて①Shimano DNA/スピリットの浸透 ②シマノのものづくりの企業姿勢である「開発型デジタル製造業」の理解醸成 ③組織を束ねるリーダーとしての「組織の視点の強化」の3つです。

参加メンバーは、会長・社長を含むトップマネジメントとの座談会や工場見学、シマノ自転車博物館の訪問など、本社でしかできない様々なコンテンツを体験。シマノの理念の浸透とシマノ流のリーダー像を考える研修を通して、参加者は創業の地で得た気づきをそれぞれの部門に持ち帰り、組織に還元することを決意しました。

今後もこのような研修を継続し、海外拠点の次世代リーダーの学びの機会を設け、価値創造企業としての成長に繋げていきたいと考えています。



島野容三会長とのトークセッション



Royal Fishing Kinderhilfe の支援 [ドイツ]

1999年スタート

シマノドイツは、Royal Fishing Kinderhilfeを通じて、スポーツ、メディア、経済界で活躍する著名人と協力し、社会的に恵まれない子どもたちのためのイベントを支援。子どもたちは釣り講座やフィッシング・サファリなどに参加し、動物や自然との向き合い方を学びます。



小児がん支援基金への寄付 [ドイツ]

2023年スタート

シマノドイツは、小児がんの子どもたちを支援する“Angler mit Herz”（心あるアングラー）への寄付を行っています。

頭部を守るヘルメット着用の推進 [ベルギー]

2023年スタート

LAZER SPORTは、自転車の利用を促し、ヘルメットの着用を推奨するオランダのチャリティ団体Hersenstrijdfondsと連携し、ヘルメット着用を推進するキャンペーンを行っています。パリ〜ルーベ間のプロレースで使用されたヘルメットをオークションに出品し、収益をHersenstrijdfondsに寄付しました。



食料品の寄付 [ブラジル]

2010年スタート

シマノラテンアメリカは、同社が主催するサイクルイベントSHIMANO FESTにて、慈善事業団体、NGO、孤児院などを支援するため、来場者から食料寄付を募っており、2023年は約8トンの食料品を集めることができました。



献血プログラム [オーストラリア]

2023年スタート

シマノオーストラリアは、地域社会への貢献の一環として献血プログラムを開始しました。社員は、地元のクリニックで血液または血漿を提供しました。

地域のケアセンターへの寄付 [シンガポール]

2023年スタート

シマノシンガポールは、高齢者や知的障がいのある人たちにサービスを提供している地域のケアセンターに食料品や日用品など様々な物資の寄付を行っています。



子ども絵画コンテスト [トルコ]

2020年スタート

シマノトルコは、「自転車」をテーマに5歳から13歳までの子どもを対象とした絵画コンテストを開催しました。優秀作品に選ばれた子どもたちには自転車を贈呈しました。



学用品の寄付〔中国〕

2020年スタート

シマノ連雲港は、経済的に恵まれない家庭の子どもたちのために学用品を贈りました。



団体献血〔日本〕

1981年スタート

シマノ本社は、日本赤十字社の協力のもと、6月と11月に団体献血を実施しました。2日間合計で116人の社員が献血に協力しました。



JINC（職業訓練・支援プログラム）〔ヨーロッパ〕

2021年スタート

シマノヨーロッパは、子どもたちが育った環境によって将来のキャリアが左右されないよう活動するJINCというプログラムを支援しています。子どもたちのオフィスへの招待や、求人への応募の仕方に関するアドバイス、インターンシップの提供を行っています。



シマノトリコロール報告書を読んで



藤江 俊彦

千葉商科大学名誉教授
(一社)日本経営管理協会 会長

2023年の経済社会は数年続いた新型コロナウイルスがようやく収束に向かい、活発さを取り戻した。ただ世界ではウクライナや中東で紛争があり、米中対立による分断傾向も懸念されている。気候変動も顕著となり、カーボンニュートラルへの対応も本格化してきた。

市場は海運などサプライチェーンでのコスト高が原材料・エネルギーに影響し、インフレとなり、企業は値上げを強いられ厳しい状況となった。いわゆるVUCA (volatility, uncertainty, complexity, ambiguity: 変動性、不確実性、複雑性、曖昧性) と呼ばれる先読みの難しい時代と言えるのではないか。

本報告書で感心したのはシビアな事業環境の中で、トップが巻頭で持続可能社会に貢献するための存在意義や使命

の重要性を語っていることである。「大地・空・海」という事業領域をカラーの3色ラインで表象した「トリコロール報告書」の名称にふさわしい。ビジネスだけでなく根本的な企業理念を守り抜く決意が伝わってくる。

つぎに本報告書全体の流れから“人的資本経営”への本気度を知ることができた。すでに1月、人的資本の開発専門部署を設立した。2022年に創設した社内大学「SHIMANO CAMPUS」では実践知や専門知識と一般教養を学ぶ二学部があり、リアルとウェブで運営している。海外でも各種セミナーやトレーニングと、アウトドア体験などチームづくりに力を入れていることがわかる。またシマノスピリットや開発型デジタル製造業の理解を深める次世代リーダー研修を創業の地、堺で実施している。

労働安全衛生では海外を含め、労災・事故報告などリアルタイムで共有するGOHSを導入した。再発防止の取組みとして評価できる。これはインドネシアでのQEHSと共に他の地域でも求められているのではない。

企業経営で無形資産の重要性が増す中、シマノは『Clarivate Top 100 グローバル・イノベーター2023』アワードを受賞した。これは特許調査・分析など世界的発明企業と認められたことで高く評価される。知的資産を生み出すのは人的資本であり、それを重視する成果が出たと解釈できよう。政府は2050年までに温室効果ガスとなるCO₂排出量を除去し、植林などで吸収量を増やし、差し引きゼロにするカーボンニュートラルを目標としている。生産現場では化石燃料

を熱源とする設備から電気設備へ切り替え、国内製造拠点の全電力を再生可能エネルギー由来電力でカバー、一部の海外工場で再生エネルギー証書購入などを実施、気候変動対応や環境負荷低減活動として評価できる。ポーランドの植樹活動が開示されているが、国内でもCO₂の吸収量を増やすために植樹活動などを検討してはいかがだろうか。

物流でのパレット・通い箱のリユースや、コンテナの使用不可なものをメーカーに有価で引き取ってもらう100%マテリアルリサイクルは好ましい資源循環の取引である。同様に不要な樹脂トレイを材質ごとに仕分け、リサイクル業者へ有価で引き渡し、再生材市場で別製品として再利用するのも、経済合理的で有益と考えられる。

環境負荷低減の製品づくりのため、シマノは20年前からシマノグリーンプラン (SGP) を策定、協力会社と共に遵守を進めてきた。早くから取り組んできたのは安全・安心な製品を提供するシマノのユーザー本位の基本的姿勢があったからだろう。国内外で製品含有化学物質の法規制がよく変わるので、SGPも改訂しSGPコミッティーメンバーと情報を共有、迅速に対応するシステムを導入するなど積極的に対応している。

自転車通勤は電車の混雑や交通渋滞を避けられ、環境・健康にも良いとされて、国土交通省が「自転車通勤推進企業」宣言プロジェクトを実施しており、シマノは「優良企業」に認定されている。本社社員の4割が自転車通勤登録し、通勤手当支給、ヘルメット購入補助金支給や大規模駐輪場、

シャワーやロッカーなどの施設、空気入れや共用工具を整備している。これは本業を活かす人的資本経営の一端と言えるのではない。

新しい価値創造を「企業文化」として挙げている企業は少ない。自転車や釣り関連の「こころ躍る製品」を届け、イベントや文化活動などで楽しさやその機会、体験を提供することはユーザーの生涯価値になり、継続することで企業価値の創造となり、企業文化を醸成することにもなる。自転車も釣りも国内だけでなく海外拠点で、ユーザーが参加できるイベントや文化活動が実施され、バーチャルでも参加できるのは体験の機会を広げ、グローバル社会にも貢献することになるだろう。自転車博物館や情報発信メディアも人々の関心や理解を得てシマノ文化形成や地域社会に役立つと考えられる。

さらなる取り組みとして人的資本経営でのシマノの人権方針を開示すると、より説得力がでるのではない。またTCFD (気候関連財務情報開示タスクフォース) も自然環境と関連深い企業として、投資家・格付け機関・金融機関などの信頼を得るため図やメッセージで開示できないだろうか。

タイトルの「トリコロール報告書」の通り、ドメインに則ってまとめられている。これからはシマノが「社会貢献も経済成長も」という共有価値を創造する企業として、持続可能性の取り組みを進め、一層の成果が実ることを期待したい。

「価値創造企業」を目指して

人と自然のふれあいの中で、新しい価値を創造し、健康とよろこびに貢献する。

シマノはこの使命のもと、つねに先進技術を駆使しながら、本当に信頼されるものづくりに取り組んでいます。

これからも開発型デジタル製造業として「こころ躍る製品」をお届けすることを通じて、

自転車文化、釣り文化の創造に貢献する企業として着実に歩んでいきます。

会社概要

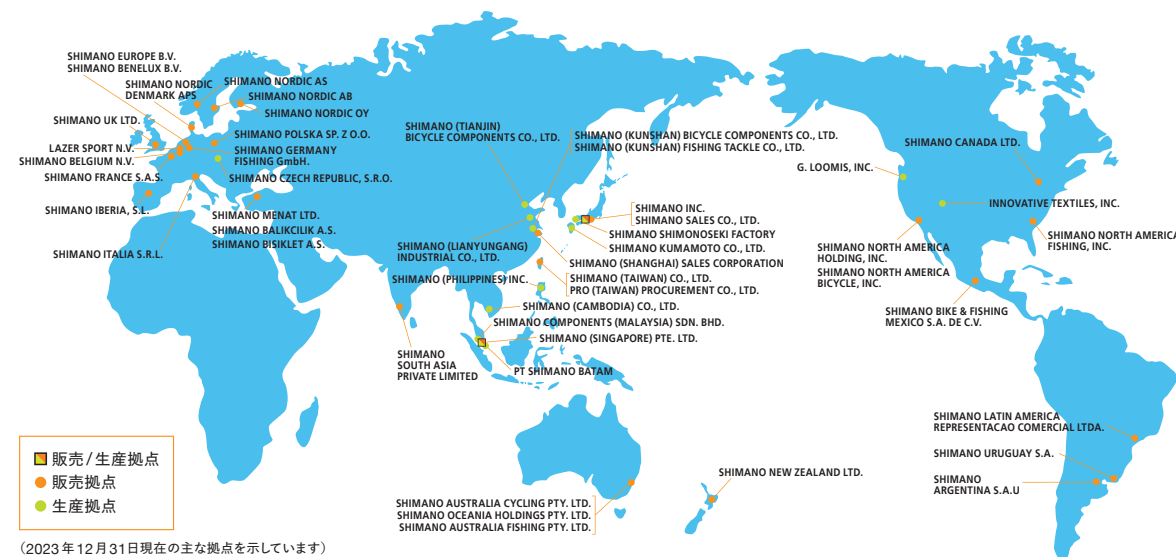
社名	株式会社シマノ
英文社名	SHIMANO INC.
本社住所	〒590-8577 堺市堺区老松町3丁77番地
代表	TEL：072-223-3210
URL	www.shimano.com
創業	1921年2月(大正10年)
設立	1940年1月(昭和15年)
資本金	356億円
上場取引所	東証プライム市場
社員数	1,651人(単体) 9,703人(連結) (2023年12月31日現在)
主な事業	自転車部品、釣具、 ロウイング関連用品等の開発・製造・販売
連結子会社	48社(2023年12月31日現在)



Technology Innovation Center
(TIC)



Manufacturing Technology Center
(MTC)



Closer to Nature, Closer to People



株式会社 シマノ

〒590-8577 堺市堺区老松町3丁77番地

企業文化コミュニケーション部